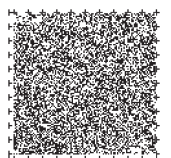


第4章

施設整備計画

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



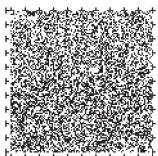
第4章

施設整備計画

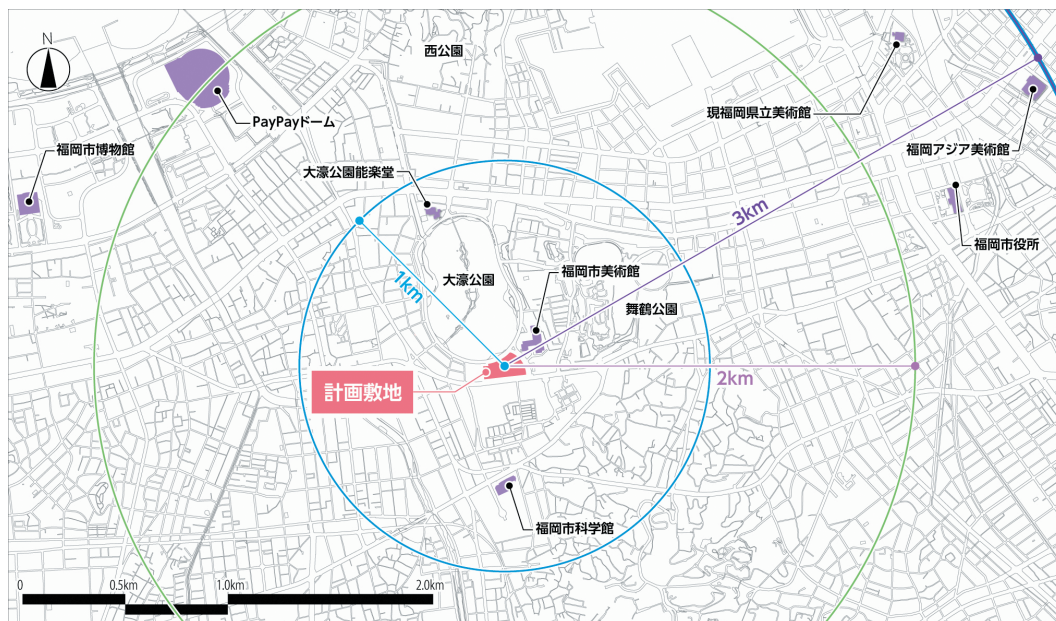
1 敷地の概要

(1) 敷地の位置と周辺環境

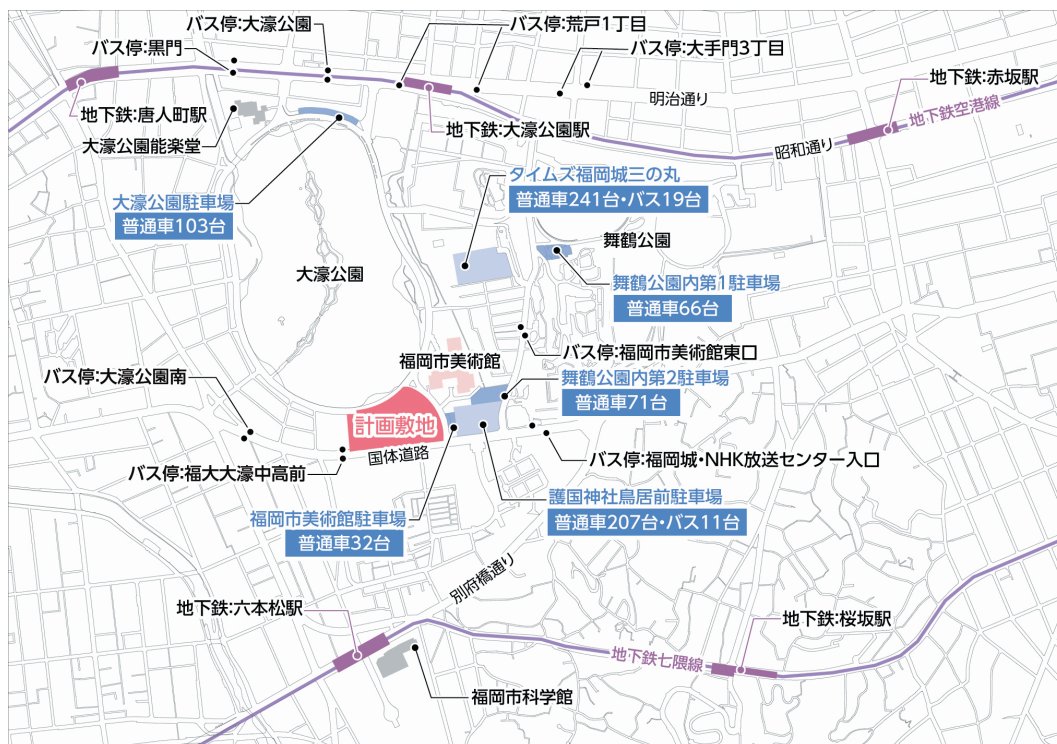
- 新県立美術館は、現県立美術館から2.5km離れた、県営大濠公園南側に位置する県有地（福岡武道館及び日本庭園の敷地）を活用して整備する。
- 県営大濠公園は、福岡市中心部からのアクセスに恵まれ、国内外から年間100万人が訪れる福岡県の代表的な都市公園である。休日平日を問わず、多くの県民が思い思いの活動を楽しむ憩いの場である。また、アジアを中心とした海外からの旅行者も数多く訪れている。
- 西側は、戸建て住宅やマンションが建ち並ぶ閑静な住宅地が広がっている。
- 東側は、2つの国指定史跡「福岡城跡」、「鴻臚館跡」を有する舞鶴公園（福岡市管理）があり、歴史保存エリアとなっている。
- 南側の六本松エリアは、住宅や学校、店舗が建ち並んでおり、近年は九州大学六本松キャンパス跡地の再開発に伴い、都市の更新が進んでいる。
- 敷地から半径1km以内には、大濠公園能楽堂、福岡市美術館、福岡市科学館があり、半径3km以内には、現県立美術館、福岡アジア美術館、福岡市博物館などの文化施設が立地している。



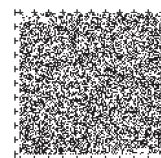
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(2) 敷地の特性



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



ア 交通環境

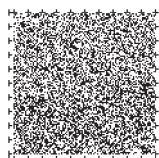
- 敷地は、福岡市営地下鉄空港線大濠公園駅から約900m（徒歩約15分）、福岡市営地下鉄七隈線六本松駅から約700m（徒歩約10分）の所にある。
- 博多駅、天神方面からの最寄りの路線バス停留所は徒歩約5分の範囲内に3か所ある。
- 福岡空港、博多駅、天神など主要な交通結節点から公共交通機関によるアクセスがしやすく、利便性が高い。
- 公共・民間の駐車場が周辺に複数所在し、車両によるアクセスも優れている。

イ 前面道路

- 敷地の前面道路は、南側の市道堅粕西新2号線（通称「国体道路」、4車線、幅員10m）である。
- 敷地の北側、東側の通路はいずれも大濠公園の一部である。北側園路は公園管理用車両のみ通行可能で、一般車両の出入りはできない。東側園路は日本庭園及び福岡市美術館への進入動線として一般車両の通行に供している。

ウ 地形・地盤

- 敷地は平坦である。
- 福岡武道館建設時（昭和54（1979）年開館）のボーリング調査によると、建築物を支えることが可能なN値50以上の支持地盤は、地盤面から地下10m前後のところにある。
- 同調査による地下水位は、地盤面から1.3～1.6mと敷地全体で高い。敷地一帯はもともと沼沢地で、近世に、黒田長政が福岡城築城の際に天然の外濠とした「大堀」の土手部分にあたる。このため、地下水位は現在も大濠池の水面とほぼ同じ高さで想定される。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

エ 自然災害

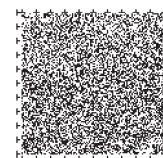
福岡市ハザードマップによる敷地の災害想定は以下のとおり。

地震	<ul style="list-style-type: none">● 平成17(2005)年3月に発生した福岡西方沖地震では震度5強を記録。● 敷地から「警固断層」までは直線距離で約1.5km。● 福岡市の揺れやすさマップでは、警固断層東部を震源とする地震が発生した場合、震度6強の揺れが発生すると推定。
大雨・洪水	<ul style="list-style-type: none">● 「計画規模の降雨(*1)」では浸水被害対象外。● 近年全国で多発する豪雨災害を考慮した「想定し得る最大規模の降雨(*2)」による浸水被害想定は以下のとおり。<ul style="list-style-type: none">・武道館部分:1.0~2.0m、浸水継続12~24時間・日本庭園部分:0.5~2.0m、浸水継続12時間未満
高潮	<ul style="list-style-type: none">● 昭和9(1934)年の室戸台風規模の台風が襲来し、満潮となった場合の高潮の浸水被害想定は以下のとおり。<ul style="list-style-type: none">・武道館部分:3.0m以上、浸水継続12~24時間・日本庭園部分:3.0m以上、浸水継続12時間未満
津波土砂災害	被害想定対象外
避難場所指定	大濠公園は洪水時以外の避難場所として指定されている。

(*1) 1年間の発生確率が1/30~1/100程度の降雨

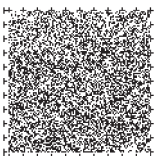
(*2) 1年間の発生確率が1/1000の程度の降雨。樋井川流域で615mm/6時間程度の大雨が発生した場合に相当。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(3) 敷地の現況

	福岡武道館	大濠公園日本庭園
所在地	福岡市中央区大濠1丁目1番1号	福岡市中央区大濠公園1番7号
	(大濠公園区域外)	(大濠公園区域内)
敷地面積	約8,400㎡	約12,000㎡
	合計 約20,400㎡	
土地所有者	福岡県(一部民有地あり)	
周辺の土地利用状況	北側は大濠公園、東側は福岡市美術館、南側は大濠高校、NHK 福岡放送局、護国神社、西側は福岡管区気象台が立地している。	
接道条件	南側の市道堅粕西新2号線(国体道路)に接道している。	



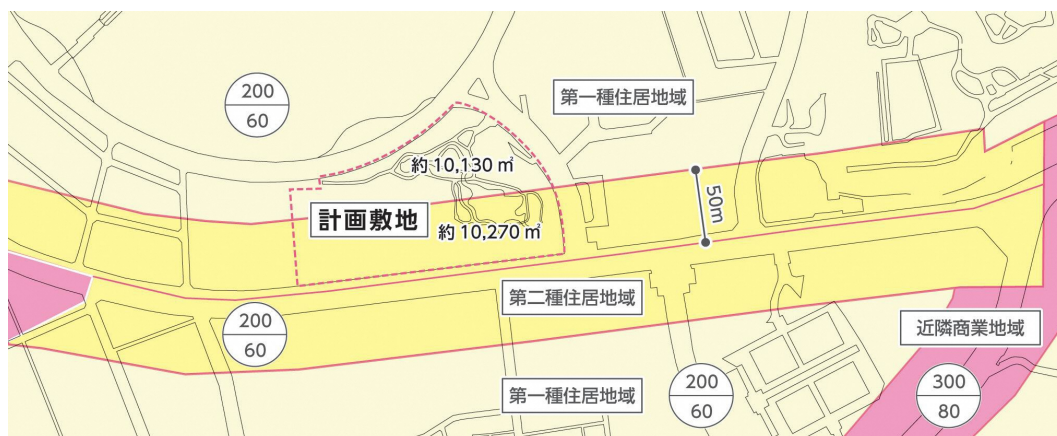
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(4) 土地利用上の法的な制約条件

敷地に係る土地利用上の法的な制約条件は、主に以下のとおり。

ア 都市計画法にもとづく用途地域

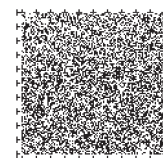
- 第一種住居地域と第二種住居地域（前面道路境界線から50mの範囲）に指定されており、建蔽率は60%以内、容積率は200%以内と定められている。
- 第二種住居地域が敷地面積の過半を占める場合、美術館は用途適合であるが、第一種住居地域が過半を占める場合、用途不適合となるため、建築基準法第48条の許可（福岡市建築審査会の同意を得る）が必要となる。
- 用途適合の可否を判断するため、敷地境界と各用途地域面積を確定する必要がある。



イ 都市公園法に基づく都市公園

- 大濠公園は都市公園法に基づく都市公園に位置付けられている。
- 大濠公園内の建蔽率については、福岡県都市公園条例により、教養施設等の建築面積は公園面積の12%以内と定められている。
- 大濠公園の敷地は約398,000m²（39.8ha）あるため、既存施設の建築面積を含めても十分建築可能である。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



ウ 都市計画法に基づく風致地区

- 福岡城址風致地区（第三種風致地区。なお、福岡市内の風致地区はすべて第三種）に指定されている。
- 福岡市風致地区条例により、原則として、建築物の高さは15m以下、建蔽率は40%以下、建築物の後退距離は道路に接する部分では2m、その他の部分は1m、また、みどり率（敷地面積に対する緑地面積の割合）は30%以上と定められている

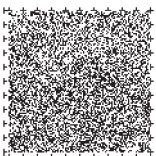


エ 景観法に基づく景観区域

- 地域特性に応じた景観誘導を図る「歴史・伝統ゾーン」に位置しており、建築物や工作物の規模・配置、形態・意匠、外構等について景観基準が適用される。
- 延べ面積1,500㎡又は高さ15mを超える建築行為は福岡市への届出が必要である。

オ 文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地

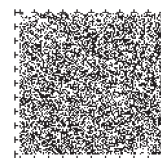
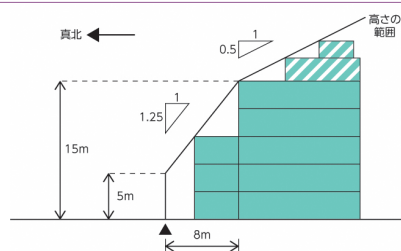
- 敷地の南側は、1671（寛文11）年から1679（延宝7）年に、大堀の南岸から西岸に構築された「福岡城長土堤跡」^{ふくおかじょうながどてあと}の埋蔵文化財包蔵地となっている。
- 新たに建物を建設したり、地下スペースを設けたりする場合は、福岡市への届出・協議を要し、計画によっては試掘調査等が必要となる場合がある。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

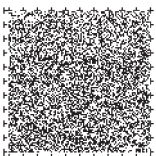
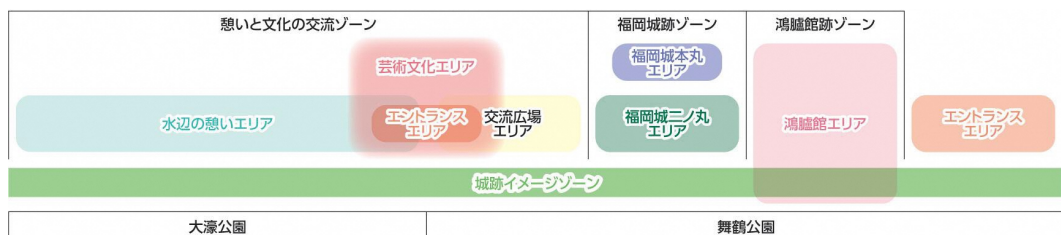
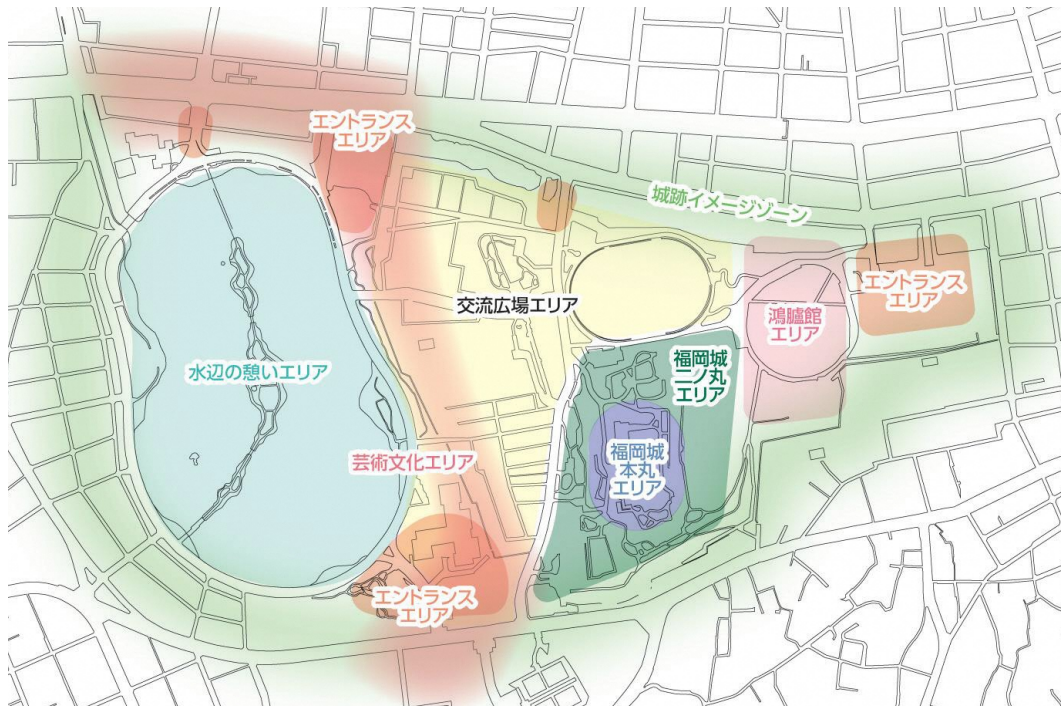
■法令による敷地の制約条件

関連する法令		制約条件
都市計画法	用途地域	第一種住居地域・第二種住居地域 ※第一種住居地域が敷地の過半を占める場合、建築基準法第48条の建築許可が必要(福岡市の許可)
	建蔽率・容積率	60%・200%
	高度地区	第二種15m高度地区
	地区計画	指定なし
	防火地域	準防火地域
	風致地区	福岡城址風致地区(都市計画決定に基づくもの) 都市の風致を維持するため、建築物の形態や色彩その他意匠等の制限がある。 ・建築物の高さ15m以下 ・建蔽率40%以下 ・建築物の外壁後退距離 道路境界から2m以上、その他の境界から1m以上 ・みどり率(敷地面積に対する緑地面積の割合)30%以上 など
都市公園法 (大濠公園)	建築面積の制限あり ・公園内建築物の建築面積の合計≦公園面積の12%	
景観法 (歴史・伝統ゾーン)	延べ面積1,500㎡又は高さ15mを超える建築行為は福岡市への届出が必要 ・建築物又は工作物の規模・配置、形態・意匠、外構、夜間照明、屋外広告物、色彩についての行為規制がある。	
屋外広告物法 (屋外広告物禁止地域)	福岡城址風致地区は全域「禁止地域」に該当	
文化財保護法 (埋蔵文化財包蔵地)	日本庭園、武道館の南側道路沿いは、史跡「福岡城跡」の大堀部分にあたり、埋蔵文化財包蔵地に指定されている。 ・整備に際しては福岡市へ届出を行い、試掘等について協議が必要	



(5) 関連計画(セントラルパーク構想・基本計画)

- 平成26(2014)年6月、大濠公園と隣接する舞鶴公園との一体的な活用を図る「セントラルパーク構想」が県と福岡市の共同で取りまとめられ、その後、構想の実現に向けた「セントラルパーク基本計画」が令和元(2019)年6月に策定されている。
- 構想では、舞鶴公園内にある国指定史跡「福岡城跡」、「鴻臚館跡」の歴史的遺構の調査保存と活用、両公園の連続性の確保などの再整備が計画されている。
- 新県立美術館がここに加わることで、能楽堂や日本庭園、福岡市美術館との相乗効果を高め、構想が掲げる「芸術文化エリア」の中核を担うことができる。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

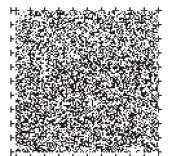
憩いと文化の交流ゾーン<芸術文化エリア>利活用の考え方

福岡市美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設、それらをつなぐ空間、周辺地域への広がりを含めて「芸術文化エリア」とします。

福岡の芸術文化施設が連携し相乗効果を高め、福岡の芸術文化発信のための核となるエリアとして位置付けます。

拠点となる施設へのアプローチの向上や施設間の回遊性の向上に加え、芸術文化の雰囲気が現在の施設内のみにとどまらず、パブリックアートやアートイベントなどを介して公園全体やNHK福岡放送局などの周辺施設をはじめ、都市全体への広がりへとつなげていきます。県民・市民の芸術文化への関心と活動を育み、芸術文化分野を中心とした観光の拠点化を図ります。

出典：セントラルパーク基本計画（令和元年6月 福岡県・福岡市）

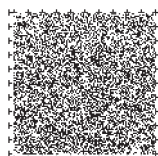


(6) 敷地内の既存施設の現状

敷地内に存する既存施設の現状は以下のとおり。

(令和3年時点)

	福岡武道館	大濠公園日本庭園
施設管理者	福岡県警察本部	福岡県公園街路課
敷地面積	約8,400㎡	約12,000㎡
築年	昭和53(1978)年度竣工、 昭和54(1979)年開館、築43年	昭和58(1983)年度竣工、 昭和59(1984)年開園、築38年
建築面積	3,372㎡	503㎡
延べ面積	5,603㎡(武道館4,886、弓道場561、相撲場156)	490㎡(茶会館314、茶室74、 露地便所8、管理棟85、四阿9)
施設の構造・階数	・武道館(鉄筋コンクリート造) 地上2階、地下1階 ・弓道場(鉄骨造)地上2階 ・相撲場(木造)平屋 * 武道館の最高高さは約20m	・茶室・茶会館(木造)平屋 ・管理棟・露地便所(木造)平屋 ・四阿2か所
進入路	南側国体道路	一般利用者:東側冠木門 ^{かぶきもん} 、西門 サービス用:東側通用門
連続性	武道館と日本庭園の境界部に行き来できる出入口はなく、視界も高木で遮られている。敷地の連続性はなく、完全に分断されている。	

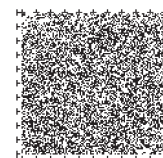




■日本庭園の利用状況について

日本庭園の入園者数は年々増加しており、コロナ禍前の令和元（2019）年度はインバウンドが好調だったこともあり年間6万人が利用。庭園鑑賞のほか、茶会や写真撮影にもよく利用されている。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

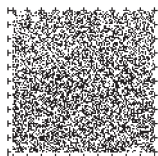


2 施設整備方針

(1) 基本方針

新県立美術館の目指す姿とコンセプトを踏まえ、以下の基本方針に基づき施設整備を行う。

1. 我が国有数の芸術文化エリアを形成し、古代、迎賓館として栄えた鴻臚館のように、国内外の多くの人々が交流する拠点としてセントラルパーク構想の魅力を高める施設整備を行う。
2. 時代の変化に合わせて進化し続ける技術や新たな芸術表現に対応可能なフレキシブルな施設機能を備える。
3. 貴重な美術作品を後世に引き継ぐとともに、誰もが安心して豊かな時間を過ごせる、環境にもやさしいサステイナブルな施設とする。
4. 周辺の景観やまち並みとの調和を図りつつ、大濠公園全体を広大なアート空間と見立て、公園と一体となった建築が一つの芸術作品となり、スケール感のある美術鑑賞や体験ができる環境を整備する。日本庭園は来館者に豊かな空間を提供すると同時に、一つの展示空間として美術館の個性を創出する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(2) 施設整備に必要な基本的性能

将来にわたって国内外の人々から親しまれ、来館者が長く快適に過ごせる施設、また貴重な美術品を保存していく施設とするため、以下の性能を備えるものとする。

ア 立地特性を考慮した整備

大濠公園の立地特性や土地利用上の諸条件を考慮し、周辺環境に配慮した整備を行う。

イ 防災機能の確保

1. 地震や風水害など自然災害や火災への対策

人命の安全確保はもとより、収蔵作品や展示作品に被害が及ばないように、耐震性、耐浸水性、耐火性能を確保するとともに、大濠公園一帯が広域避難場所となっていることから、防災面の機能にも配慮する。

2. ミュージアムBCP

災害発生時のライフラインの確保、感染症発生時の美術館活動に対して備えるべき機能、電力供給不足に対応できる設備区分の設定等を考慮する。

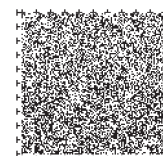
ウ 防火性能、防犯性能の確保

文化庁の公開承認施設の規定を満足するとともに、美術品補償制度の適用要件やAAMファシリティレポートの性能水準にも配慮する。

エ 環境負荷の低減・消費エネルギーの低減

環境負荷、消費エネルギーの低減について、新たな美術館のあり方として積極的に考え、有効な発想と技術をできるだけ採用する。

熱負荷の低減や省資源化を図るとともに、省エネルギーと再生可能エネルギーを組み合わせて、我が国が令和32（2050）年までの実現を目指す「カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に貢献する。



オ 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

長く安全に建物を利用できるよう、高耐久性の材料や機器等を使用するとともに、修繕や更新のしやすさに配慮し、施設の長寿命化を図る。断熱性・気密性の高い材料や工法、省エネ設備、節水機器などの採用により、施設の維持管理にかかる費用をできるだけ抑え、ライフサイクルコストの低減を図る。

カ あらゆる人々が快適に利用できるユニバーサルデザイン

すべての利用者ができる限り円滑かつ快適に利用できる施設とし、視認性に優れるカラーデザインに配慮したサイン計画や段差処理、明快な動線計画等、ユニバーサルデザインの考え方を十分採り入れる。

キ 県産材や県産品の活用

福岡県産の材料や製品をできるだけ活用し、福岡県の魅力を発信する。

(参考)

■文化庁公開承認施設の承認

文化財保護法第53条第1項ただし書きの規定やその他文化庁の定める指針等に基づき、必要な対策を行うことが必要。

博物館や美術館などの国宝、重要文化財の所有者（管理団体含む）以外の者が、当該文化財を公開しようとする場合、文化庁長官の許可が必要であるが、文化財の公開に適した施設として、あらかじめ文化庁長官の承認を受けた「公開承認施設」であれば、公開後の届出で足りるとされている。承認にあたっては、個々の案件について文化庁等関係機関との協議により合意を得ることが多い。

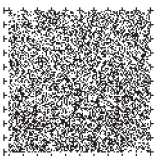
■美術品補償制度の適用要件への適合

美術品補償制度（「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」により実施）は、展覧会を対象とした制度であるが、その適用における施設要件として、耐火性、耐震性、適切な温湿度管理、防火防犯のために常時稼働する設備等が求められている。

■AAM ファシリティレポート

(American Alliance of Museums General Facility Report)

美術館・博物館が作品資料の貸し借りをを行う際に、世界的に使用されている施設の性能水準書。地震対策や風水害への備えなどのチェック項目があり、示された項目に適切に該当することが国際的水準を満たした美術館として信頼を得ることにつながる。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

3 敷地利用計画

(1) 基本的な考え方

ア 立地に配慮した景観形成

- 自然豊かな水景の都市公園である大濠公園の環境を活かした新たなランドスケープを創出する。
- 敷地は風致地区に指定されており、特に緑の確保が重視されている。大濠公園や日本庭園と一体となって、良好な緑の景観を形成する。

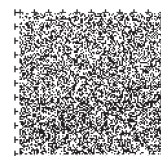
イ 交通アクセス

- 来館者の利便性に配慮し、主要道路、地下鉄駅、路線バス停留所からの安全で分かりやすいアプローチの確保を図る。駐車場の整備については、開館後に、交通渋滞等により周辺環境を悪化させないように留意する必要がある。

ウ 開放性

- 美術館の建物には公園と緩やかにつながるパブリックゾーンを設け、来館者の流れを引き込む開かれた空間となるよう配慮する。
- 美術館の建物周囲や外構は防犯性に十分留意したうえで、公園との一体感を損なわないよう配慮する。
- 大濠公園全体としての賑わいが創出されるよう、公園内の他施設とのつながりや相互利用のしやすさに配慮する。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(2) 敷地への動線

計画敷地の北側は大濠公園の周回園路、東側は大濠公園の南出入口、南側は国道道路に面する利便性の高い立地となっている。

敷地への動線は、来館者にとって分かりやすいこと、また、公園利用や福岡市美術館利用との相乗効果、美術鑑賞への期待感といった心理的効果を高める計画であることが不可欠である。

一般車両の出入口や美術品の搬出入口は南側の国道道路に限られるが、徒歩や車いす、自転車による来館者のアプローチは次の3方向が考えられる。

●北側（大濠公園側）

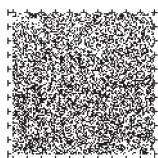
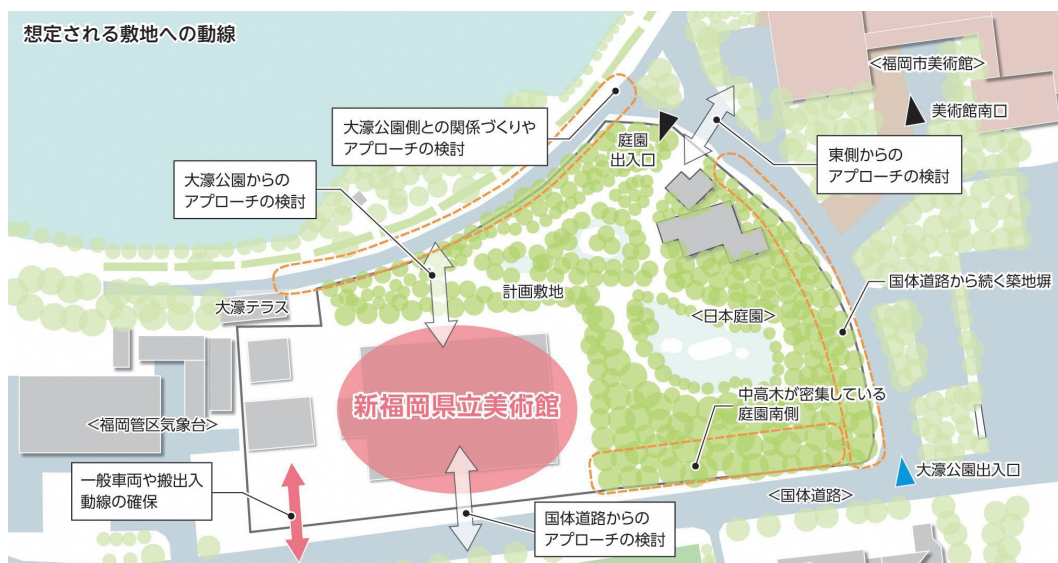
美術館を目的とする人だけでなく、公園利用者にとっても入りやすい計画となる。美術館へのアプローチ空間として日本庭園の一部を再整備する必要がある。

●東側（福岡市美術館側）

地下鉄大濠公園駅やバス利用者、公園利用者にとって比較的入りやすい計画となる。日本庭園の再整備が必要となるとともに、美術館のエントランスの視認性を向上する工夫が必要となる。

●南側（国道道路側）

幹線道路からの視認性が高く、車利用者にとって分かりやすい計画となる。地下鉄六本松駅方面からアクセスする利用者にとっても入りやすい計画となる。南側に主たる出入口を設ける場合は、大濠公園や福岡市美術館との連携が弱く、また、車両動線と歩行者動線の交錯が懸念される。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(3) 日本庭園の活用と再整備

新県立美術館と日本庭園の関係については、相互に行き来ができるといった物理的な連続性や、額縁の絵のように見せる視覚的な連続性だけではなく、美術品の展示や活動空間としての一体性を確保することにより、双方の魅力向上を目指す。

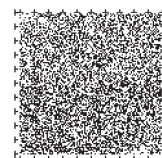
ア 日本庭園

作庭趣旨を踏まえ、現在の日本庭園の価値をできるだけ損なわないことを基本としつつ、保全すべき箇所や眺望、新たな視座を十分に分析・検討したうえで、美術館との良好な関係を構築する。庭園の魅力向上と美術館との相乗効果に配慮する。

イ 茶室・茶会館

大濠公園開園50周年を記念して造られた木造建築であり、2029年の開園100周年には建築から45年が経過する。築年数や老朽化を考慮し、改修や改築による再生を検討する。庭園の魅力向上と美術館との相乗効果に配慮する。

- 美術館と日本庭園の相乗効果により美術館機能を高めるには、美術館と日本庭園の一体的な運営が望ましい。その場合、敷地全体を都市公園とし、美術館を公園施設に位置づける必要があるため、敷地の一部である福岡武道館部分を適切な時期に都市公園区域に編入する必要がある。
- 入園料のあり方については、施設利用と管理運営の面から最適な方法を今後検討する。



■大濠公園日本庭園の概要

- 大濠公園開園50周年を記念して築庭され、昭和59（1984）年に開園。
- 伝統的な技法である築山林泉回遊式庭園ちくざんりんせんかいゆうしきていえんにより作庭されている。
- 冠木門かぶきもんから入り、大池と築山の池庭つぎやま だいちせんてい、曲水まがみづ、枯山水庭かれさんすいてい、数寄屋造りの茶室すきやと露地庭ろじにわなどが配置され、これらをつなぐ園路を回遊する。
- 庭園内には大寄せの茶会などを行う茶会館及び椅子席りゅういせきの立礼席がL字型に配置されている。

庭園設計者

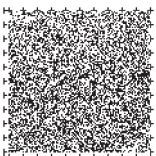
中根 金作氏（1917-1995年）

昭和の小堀遠州と称された現代を代表する作庭家であり、城南宮（京都市伏見区）、ボストン美術館の庭園、大仙公園日本庭園（堺市堺区）などを手掛けた。

茶室設計者

中村 昌生氏（京都伝統建築技術協会）（1927-2018年）

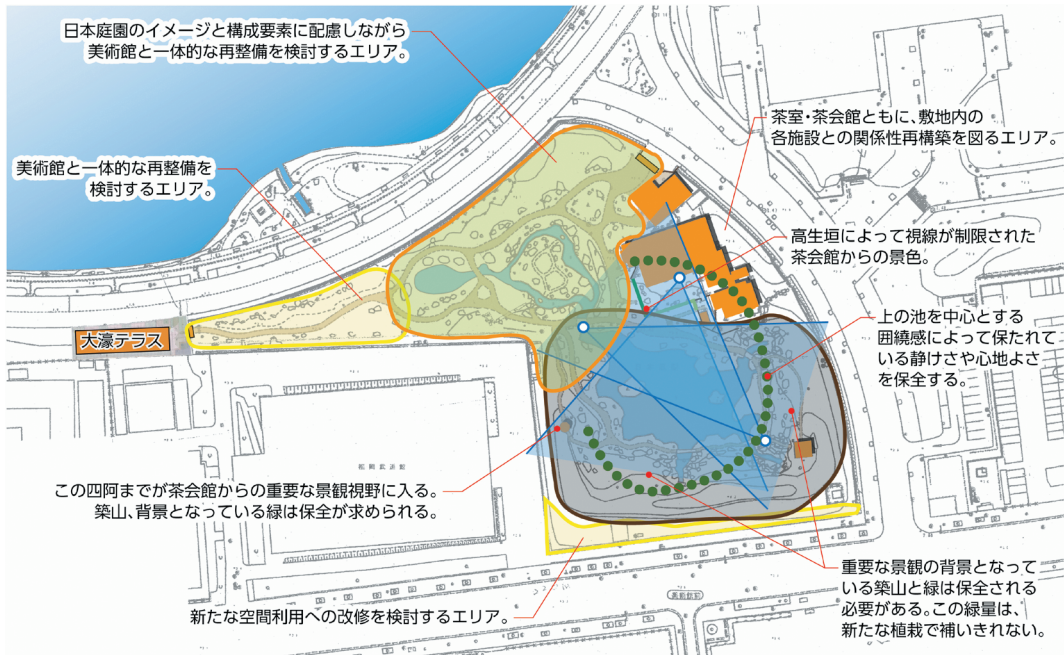
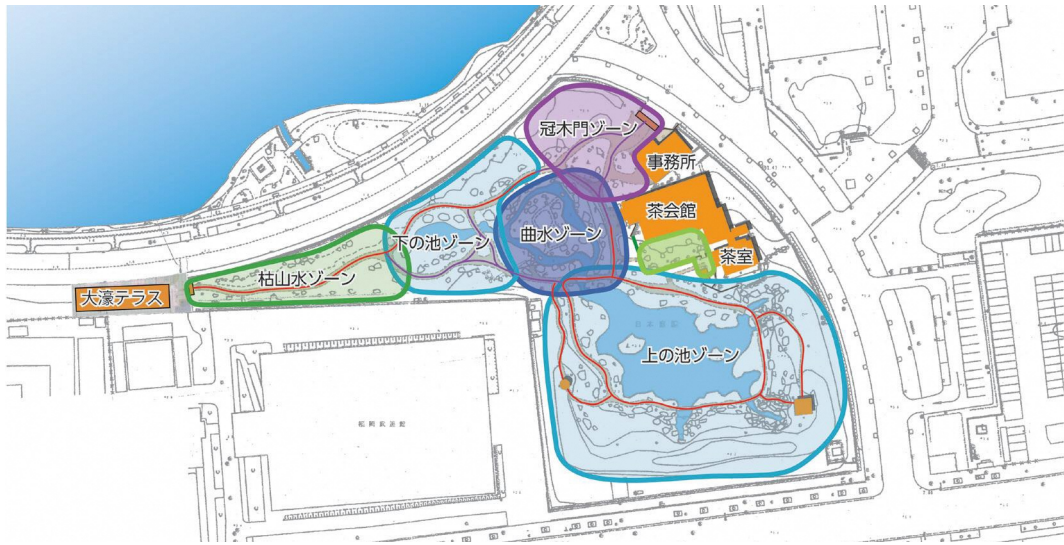
現代日本における茶室・数寄屋建築研究の第一人者であり、フランス国立ギメ美術館茶室、スウェーデン国立民族博物館茶室等を手掛けた。



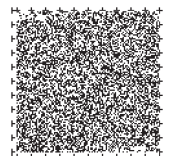
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

【日本庭園の分析】

枯山水ゾーン	下の池ゾーン	曲水ゾーン	上の池ゾーン	冠木門ゾーン
白砂と立石により構成される枯山水。土堀と借景の大池を背景にした、伸びやかな景色を作っている。抽象的でありながら堅さなく、明るさを持つ個性的な庭となっている。	落ち着いた風情の下の池を配したゾーン。大濠公園の大池が目の前にあるため、対比的に小さな水面を置き、詫びのある庭となっている。	植栽は中木・低木を植えて、見え隠れしつつも、陽当たりのよい空間の中に2筋の曲水を配した明るい景色をつくっている。視線はおのずと近景に目が向くように設えてある。	大きな水面を中心に回遊動線を取り、見せ場となる庭園要素を環状に配した池泉回遊式の庭。南側の築山と緑のボリュームにより、心地よい空間をつくりだしている。	園のエントランスとなっているゾーン。冠木門から入ってすぐの小広場からは、中木や低木により隣のゾーンは見えないようになっていて、次への期待感を高める役割がある。
明るい	明るい	やや明るい	明るい	やや明るい
開かれている	開かれている	やや閉じている	開かれている	やや閉じている
遠景～近景	遠景～近景	近景	遠景～近景	-



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



4 施設計画

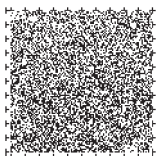
(1) 施設計画の考え方

ア 構造計画

- 平成17（2005）年の福岡西方沖地震、平成28（2016）年の熊本地震と、近年、2度の大きな地震を経験していることを踏まえ、人命の保護はもとより、貴重な収蔵品や展示作品の保護と施設機能の保持のため、免震構造の採用などにより十分な耐震性能を確保する。外壁や天井などの非構造部材や設備機器も同様とする。
- 耐火構造とし、展示室、収蔵庫はそれぞれ防火区画する。

イ 設備計画

- 必要な機能を確保しつつ、イニシャルコストやランニングコスト、及びそのバランスを十分考慮し、最適なものを導入する。特に、技術や機能の信頼性、維持更新のしやすさに配慮をする。
- 展示室、収蔵庫は、空調機械設備のランニングコストや、照明設備の適切な演色性の確保などに留意する。
- 電源や収蔵庫、展示室の空調システム等は洪水浸水想定深さより上部に配置する。
- 災害時のバックアップ機能として自家発電装置を設置する。収蔵庫、展示室の空調は、故障時にもバックアップが可能なシステムとする。
- 環境性能を重視し、省エネ性の高い高効率機器等の導入やエネルギーマネジメントによりエネルギーの効率化に努める。
- ライフサイクルコストを考慮し、機械・電気室、屋外設置機器等は適正な配置・規模とする。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

ウ セキュリティ計画

- 来館者エリアと管理運営エリアを明確に区分し、適切なセキュリティレベルを設定する。
- 作品の搬出入動線は、特に高い防犯性を確保する。

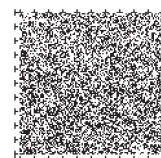
エ 駐車場計画

- 荷物搬出入者のための駐車スペースに加え、車いす利用者や来館者の利便性向上のため、敷地内に駐車場を整備する。
- 周辺駐車場の利用も考慮し、休日の来館者数による想定台数（145台）と、平日の来館者数による想定台数（74台）との平均により、概ね100台分の台数を確保する。
- 車の排気ガスや地下水等の排水、火災等の影響を考慮する。

【必要駐車台数の考え方】

企画展開催期間における休日及び平日の来館者数想定に、自動車利用率、ピーク時利用率、平均乗車人数、滞留時間等を考慮し、想定駐車台数を算出。

(*企画展来館者数 10万人、開館日数 50日、自動車利用率 25%を想定)



(2) 美術館の機能構成

第3章で示した新県立美術館に必要な6つの機能に、管理運営機能を加えた施設全体の機能について、

- 公開・非公開エリアの考え方
- コア部分（収蔵部門、展示部門）に求められる性能
- 敷地利用計画を踏まえたパブリックゾーンの考え方

を整理した上で、適切な機能を備えた美術館となるよう機能構成概念図を示す。

■施設全体の機能

機能		主な諸室	
1	収集保存	収蔵庫、トラックヤード・荷解室	
2	展示公開	展示室、県民ギャラリー	
3	調査研究	調査研究室	
4	教育普及・連携交流	多目的ルーム、ワークショップ室	
5	情報発信	美術図書閲覧室	
6	快適な利用	共用	エントランスホール、受付、トイレ
		サービス	ミュージアムショップ、カフェ・レストラン
7	管理運営	事務運営	総務学芸執務室、館長室、会議室
		施設管理	電気機械室

ア 公開・非公開エリア

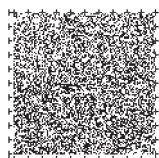
美術館施設は、一般来館者に開かれた「公開エリア」と、美術館スタッフや業務従事者のみが入れる「非公開エリア」の2つに大きく分けられる。

● 公開エリア

主として「展示公開機能」、「教育普及・連携交流機能」、「共用・サービス機能」から構成される。来館者の動線に十分配慮する必要がある。

● 非公開エリア

主として、「収集保存機能」、「調査研究機能」、「管理運営機能」から構成される。非公開エリアは美術資料保護の観点から、セキュリティや安全性を十分備



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

えたものとする。管理運営機能は使いやすく、快適な執務空間・作業空間となるよう配慮する。

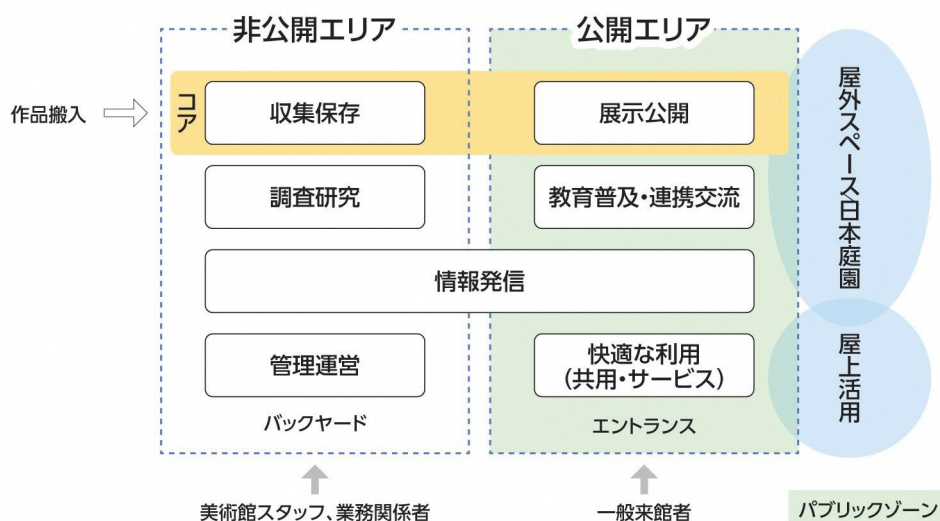
「情報発信機能」は公開エリアと非公開エリアの両方に該当する。

イ コア部分(収蔵部門、展示部門)に求められる性能

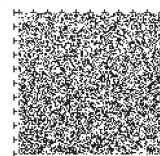
- 収蔵部門と展示部門は美術館のコア部分として、特に、高いセキュリティレベルと、適切な温湿度管理、防災対策、バックアップ対策が求められる。
- 県民共有の財産である収蔵品を安全に保護し、将来にわたって保管する「収蔵庫」、収蔵品や寄託品、国内外からの借用作品を広く来館者に公開する「展示室」は、保存科学の考えに基づく適切な環境と機能配置を十分考慮し、作品搬入経路と一般来館者動線が交錯しないよう区分する。

ウ パブリックゾーンの考え方

- 公開エリアのうち展示室以外は、県民が気軽に集えるオープンな空間を中心に、各機能が隣接・重なり合うパブリックゾーンとして、多様な活動に対応する。
- 特に、エントランスホールは大型作品やコミッションワークの展示、イベント等も可能な開放的で明るい空間とし、外気の流入や音の反響にも配慮する。
- パブリックゾーンの空間や機能をより豊かにするため、屋外スペースや日本庭園を活用する。開放的な眺望が楽しめる屋上部分も有効に活用する。
- 利用者の利便性を考慮し、施設のうち無料開放する箇所の設定、配置を検討する。

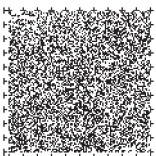
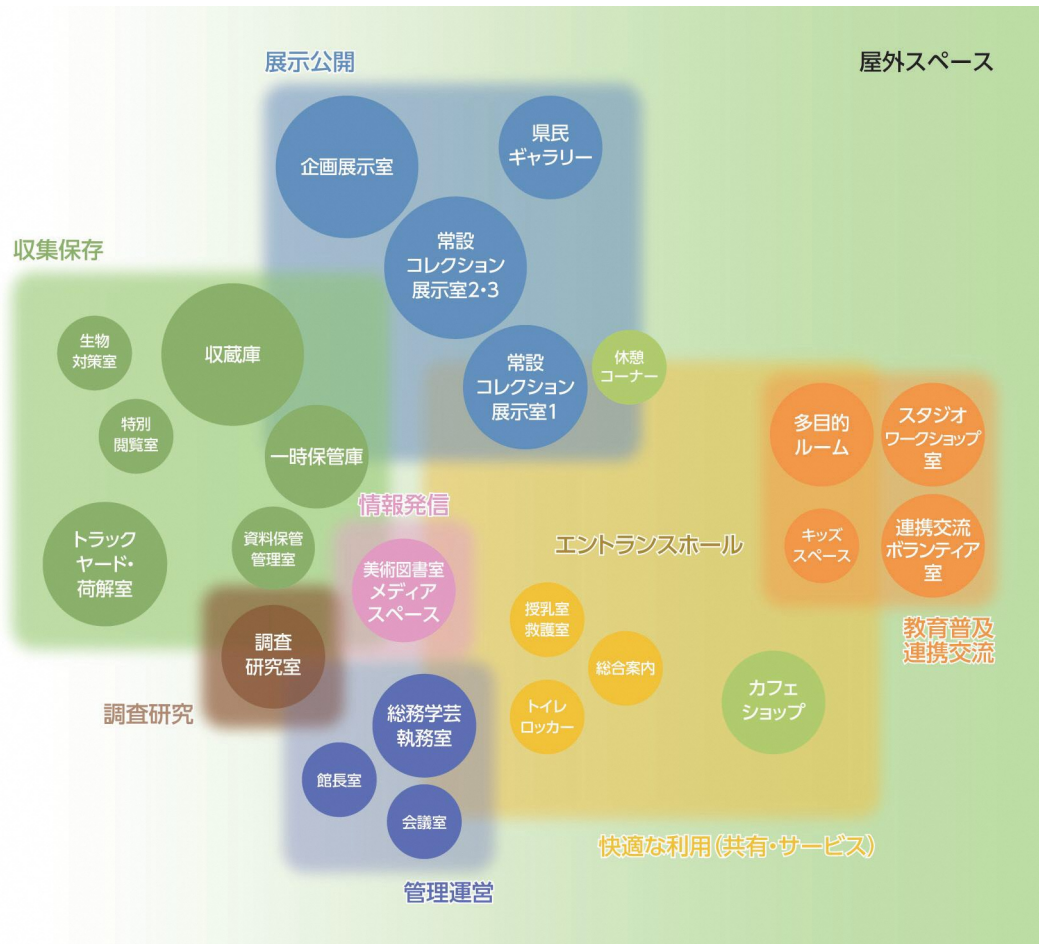


このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



エ 機能構成概念図

- 機能が重なり合う部分は、固定的な「室」の形態にとらわれず、隣接又は共有することで、できるだけフレキシブルな空間構成とし、多目的・可変的な利用に対応する。
- 利用者にかかれた部分と美術作品を守る部分を両立する動線計画と機能配置に留意する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(3) 必要諸室の機能と面積

新県立美術館に求められる機能を満たすために必要な諸室（スペース）と
目安の面積、備えるべき性能等を整理する。

1. 収集保存機能 2,300㎡

● 収蔵庫・前室・資材室 (1,300㎡)

- 現有収蔵品を適切に保管するスペースと、今後想定される寄贈・寄託、購入作品の保管スペースを見込んだ収蔵庫面積を確保する。
- 作品の種類に応じた温湿度管理と故障時のバックアップ対策のため、収蔵庫は2室以上の構成とする。室内での2層化を想定し、室の高さと十分な床耐荷重を確保する。
- 使いやすく無駄のない平面・断面形状とし、作品を効率的に保存できる最適な什器配置を想定した空間とする。
- 収蔵庫には庫外との緩衝を目的とした前室を設ける。作品の点検、採寸、シーズニング（環境ならし）などにも使用し、整形で十分な広さとする。
- 作品の保護に必要な温湿度管理と空気環境を維持できる独立した空調設備や内装を備える。
- 高潮による洪水時にも浸水しない床レベルとする。
- 高いセキュリティ性能と十分な耐火性能を備える。

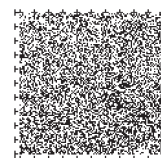
● 一時保管庫 (200㎡)

- 収集や調査、展覧会のために借用した作品、クレーン・外箱等の一時的な保管や撮影に使用するため、まとまった一定の広さを確保する。
- 使用時には収蔵庫に準じた温湿度と空気環境を維持できる空調設備を備える。

● トラックヤード、荷解室、生物対策室、作品用エレベーター (400㎡)

- 搬入口、トラックヤード、荷解室、生物対策室、作品用エレベーターは一連の作業が円滑に行えるよう配置する。
- トラックヤードは大型の美術品専用トラック2台を収容した状態で作業ができる規模、高さ、開口部を確保する。
- 荷解室は、使用時において外気を完全に遮断し、適切な温湿度を維持できる設備を備え、十分な天井高を確保する。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



- 生物対策室は、収蔵作品や搬入作品の殺虫・殺カビ処理を行うため、排気設備の整った密閉できる環境とする。
- 作品用エレベーターは、収蔵作品及び特別展示の作品の移動に必要な積載荷重及び寸法とする。各階エレベーター前には、作品の開梱・梱包、展示・撤去作業に伴う準備作業が行えるスペースと高さを確保する。
- 搬出入動線となる廊下は十分な幅と高さを確保する。

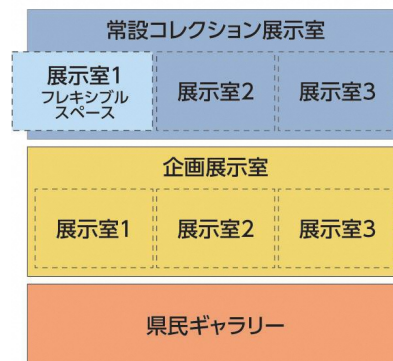
● 保存修復室、資料保管整理室、倉庫等 (400m²)

- 収蔵品・各種資料の科学的調査や保存処理・修復作業のための機器類の設置と薬剤等の保管に必要なスペースを設け、排気・給排水設備を備える。
- 美術関連資料(スケッチ帳、制作メモ、写真、書簡など)を整理、保管、発信するための資料保管整理室を設け、アーカイブ機能をもたせる。
- その他、輸送展示スタッフ控室、特別閲覧室、倉庫等を設ける。

2. 展示公開機能 3,800m²

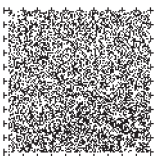
所蔵コレクションや国内外の優れた美術表現を幅広く紹介するとともに、県民の創作活動を支援するため、「常設コレクション展示室」、「企画展示室」、「県民ギャラリー(貸し展示室)」を設ける。「常設コレクション展示室」と「企画展示室」はコア部分に求められる性能を満たすよう留意する。

展示室の構成イメージ



● 常設コレクション展示室 (1,500m²)

- 次のような複数エリアで、茶器などの小品から大型の立体作品まで展示できる天井高と室構成とする。
 - ① コレクションの特色を一望できるメイン展示
 - ② 高島野十郎など代表的なコレクションのハイライト展示
 - ③ 工芸作品(染織や陶芸)、日本画(掛軸や屏風)など壁面ケースによる展示



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

- ④ 高さや広さ（ボリューム）が大きい大型作品の展示
- ⑤ 版画や写真、デッサンなど小ぶりの平面作品の展示
- ⑥ 収蔵品を用いてテーマ展示を行う展示 など
- 常設コレクション展示室の一部は、大型作品や映像作品のほか、ワークショップや講演会・シンポジウム、連携交流活動等にも利用可能なフレキシブルスペースとする。固定的な設えをせず、可動の展示ケースや什器を活用する。

● 企画展示室（1,300㎡）

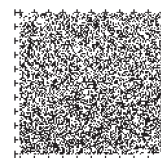
- 大規模な特別展が開催できるよう常設展示室の一部との相互利用により1,600㎡程度まで対応可能とする。
- 多様な芸術表現や進化する技術に対応できる設備環境とする。
- 国内外の優れた美術表現を幅広く紹介できる天井高を確保する。
- 大型作品などの搬出入や展示替えが安全に行えるよう作品用エレベーターや一時保管庫との動線に配慮する。

● 県民ギャラリー（貸し展示室）（700㎡）

- 公募展の開催や個人・グループの作品発表の場を提供し、県民の創作活動を支援する。
- 現在4回に分けて実施している県美術展覧会は前期・後期2回の実施を想定して展示壁面長さを確保する。可動壁により複数室に分割が可能な構成とする（4室程度）。
- 専用の作品搬入用の小型トラックヤード、荷解室、倉庫を備える。

● その他（300㎡）

- 展示看視員控室、物販保管庫、倉庫（展示ケース・照明器具・工具等）等を設ける。
- 美術作品や作家等に関する総合的・専門的な調査研究を行うために必要な研究室、資料室、作業室を設ける。



3. 調査研究機能 100㎡

- 研究室では、学芸員の調査研究活動や長期的に取り組む企画展の準備を行う。
- 資料室では、研究資料類の保管、資料整理を行う。
- 作業室は、持ち込まれた作品や資料の調査を行う。
- 学芸執務室、書庫、資料保管整理室との行き来がしやすい配置とする。

4. 教育普及・連携交流機能 600㎡

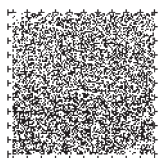
- 県民が学び、交流し、活発に活動を行える施設機能を提供する。
- 展覧会と連動したワークショップや講座などが実施可能な施設機能とする。先端的なオンライン配信機能を確保する。
- 県民の創作体験や若手作家の公開制作が可能な施設機能とする。
- 子どもや家族連れなどが来館しやすく、美術館で過ごす時間をゆったりと楽しめる機能を充実させる。

● 多目的ルーム・研修室 (250㎡)

- 講演会やシンポジウムの開催、公開講座や各種研修の実施に可能な広さを確保する（固定椅子を設置せず、120席程度を想定）。
- 適切な映像・音響設備を備える。
- 学校団体等の休憩・飲食スペースとしての活用も想定する。

● ワorkshop室、スタジオ (150㎡)

- 創作実技を伴う講座などを行うワークショップ室、作家を招へいし実験的な創作・公開を行うスタジオは、多様な活動に対応できる多目的仕様とする。
- 給排水設備を設置する。耐久性の高い床材とする。
- 機材や工具を収納する準備室を設ける。
- 日時を限定して、託児スペースとしての利用を検討する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

● ボランティア室、連携交流室、キッズスペース (200㎡)

- 美術館ボランティア活動や県民の自主活動のための準備・打ち合わせスペースとしてボランティア室を設け、移動間仕切りによる複数の室で構成する。
- 諸団体グループとの実験的な交流・共同事業のためのスペースとして連携交流室を設ける。
- 幼児や児童が楽しみながら憩うためのキッズスペースを整備する。キッズスペースは子どもにとって居心地のいい空間とし、美術に触れられる内装とする。

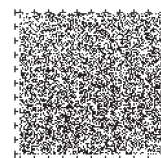
5. 情報発信機能 350㎡

美術図書・美術関連資料は本県のアートの重要な発信要素と捉え、現在所蔵する美術図書資料約5万点を積極的に活用する。

● 美術図書室、メディアスペース

- 美術図書閲覧室は一般開架・リファレンスコーナー等を設け、図書だけでなく、美術関連資料や地元ゆかりの作家の作品集等を自由に閲覧できる居心地のよい空間とする。
- 開催中の展覧会に関連した美術資料を展示するスペースを設ける。
- 書庫は現在所蔵する図書資料と今後購入する書籍等の保管を想定した広さを確保する。熟覧スペースを設け、県民の学習や研究を支援する。
- 図書の運用管理を行う美術図書事務室を設ける。
- 美術館が収蔵する図書や作品の魅力を発信するため、閉架書庫の一部は直射日光を遮りながら閲覧室や共用スペースから見える設定、配置を検討する。
- 福岡県美術資料デジタルアーカイブや九州・アジアの美術館と連携したプログラムなどを積極的に発信するメディアスペースを設ける。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



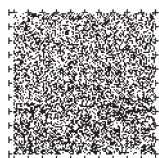
6. 快適な利用(サービス・共用) 3,450㎡

●ミュージアムショップ、カフェ・レストラン、休憩コーナー (250㎡)

- ミュージアムショップは立ち寄りやすい配置とし、美術館の魅力向上を図る。スタッフ室、倉庫を備える。
- カフェ・レストランは、来館者が利用しやすく景観を楽しめる配置とする。来館者にくつろぎと潤いを提供し、館内での長時間滞在時にも憩える場とする。
- IPM(総合的有害生物管理)上の配慮を行い、適切な配置とサービス動線とする。
- 厨房を備えるため独立した防火区画とする。
- 物品・食品搬出入のバックヤードは来館者動線と区分する。
- 休憩コーナーは各階に配置する。展覧会鑑賞の途中で休憩・リラックスできるスペースとして自然光が入る心地よい空間とする。

● 共用 (3,200㎡)

- エントランスホール、風除室、チケット販売、総合案内、ロッカー、廊下・階段、エレベーター、トイレ、救護室、授乳室、各種ダクトスペースで構成する。
- エントランスホールは誰もが入りやすい雰囲気とし、パフォーマンス、演奏など多目的な利用が可能な広さと開放感が感じられる高さを確保する。
- 風除室は室内環境を維持する大切な機能を有することに配慮する。
- 来館者用エレベーターやチケット販売は非接触型とするなど新しい生活様式に対応する。
- 車いす、ベビーカーを置くスペースを確保する。
- 十分な数の来館者用ロッカーを備え、旅行者用の大型スーツケースの収納も想定する。
- 美術館・博物館を国際会議やイベント等に活用するユニークベニューにも対応可能な機能を備える。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

7. 管理運営 3,400㎡

● 管理運営・事務 (700㎡)

- 館長室、総務学芸執務室、会議室、応接室、文書倉庫等を設ける。
- 職員が良好な環境で業務に従事できるよう、自然光や外気の取り入れを考慮した快適な執務空間とする。
- 打ち合わせコーナー、更衣・ロッカー室、トイレ、給湯・休憩スペースを確保する。

● 機械室・電気室 (1,300㎡)

- 維持管理・機器の更新がしやすい配置とする。
- 電力供給機能、収蔵・展示の空調機能は高潮による洪水時に浸水しない床レベルとする。
- テレビモニターや防犯・防災システムによる警報監視、通用口入退者の管理や有人警備を行う警備室を設ける。
- 設備機械の運転状況を監視する機械監視室を設ける。
- その他、宿直室、清掃員控室、清掃道具倉庫、分別室等を設ける。

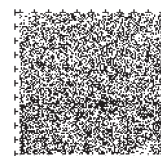
● その他 バックヤード階段室・エレベーター、廊下等 (1,400㎡)

その他

● 駐車場について

- 周辺の景観を阻害しないよう、駐車場は全て自走式とし、来館者用に100台程度の駐車スペースを地下に確保する。
- 福祉のまちづくり条例に基づき、車いす利用者用駐車スペースを設置する。できるだけ地上の美術館出入口に近い位置と地下にそれぞれ設置する。
- 来賓用及び館運営に必要な駐車スペースを適宜確保する。
- 来館者用駐車場は料金徴収が可能な構造とする。
- 来館者用駐車場の空き状況を周辺駐車場と情報共有できる仕組みを検討する。
- 電気自動車や超小型モビリティの普及に対応した整備を検討する。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



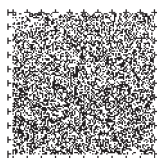
● 茶室・茶会館について

- 茶会や茶道教室・集会などの利用に供する現在の機能を維持しつつ、茶器や陶器、染織等の展示公開、特別展のレセプションなどに活用する。
- 日本庭園とあわせたユニークベニユーの活用を検討する。
- 日本庭園と一体となった静かな環境が損なわれないよう留意する。

■ 各機能の必要諸室の目安となる面積は下表のとおり

機能		必要諸室・スペース	面積 (㎡)		備考
収集保存		収蔵庫、前室、資材室	1,300㎡	2,300㎡	
		一時保管庫	200㎡		
		保存修復室、資料保管整理室、倉庫等	400㎡		
		搬出入口、トラックヤード、荷解室、生物対策室、大型エレベーター	400㎡		
展示公開		常設コレクション展示室(1~3)	1,500㎡	3,800㎡	
		企画展示室	1,300㎡		常設展示室との一体利用で1,600㎡
		県民ギャラリー(貸し展示室)	700㎡		
		看視員控室、物販倉庫、倉庫等	300㎡		
調査研究		研究室、資料室、作業室	100㎡	100㎡	
教育普及・連携交流		多目的ルーム・研修室	250㎡	600㎡	常設展示室との一体利用で750㎡
		ワークショップ室、スタジオ、ボランティア室、連携交流室、キッズスペース等	350㎡		常設展示室との一体利用で850㎡
情報発信		美術図書閲覧室、事務室、書庫、メディアスペース	350㎡	350㎡	
快適な利用	サービス	ミュージアムショップ、カフェ・レストラン、休憩コーナー	250㎡	250㎡	
	共用	エントランスホール、風除室、総合案内、ロッカー、廊下、エレベーター、トイレ、救護室、授乳室、ダクトスペース等	3,200㎡	3,200㎡	
管理運営	事務運営	館長室、総務学芸執務室、会議室、応接室、打合せコーナー、更衣・ロッカー等	700㎡	700㎡	
	施設管理	機械室、電気室、監視室、警備室、清掃員控室、分別室、バックヤード階段室・エレベーター・廊下等	2,700㎡	2,700㎡	
合計			14,000㎡		

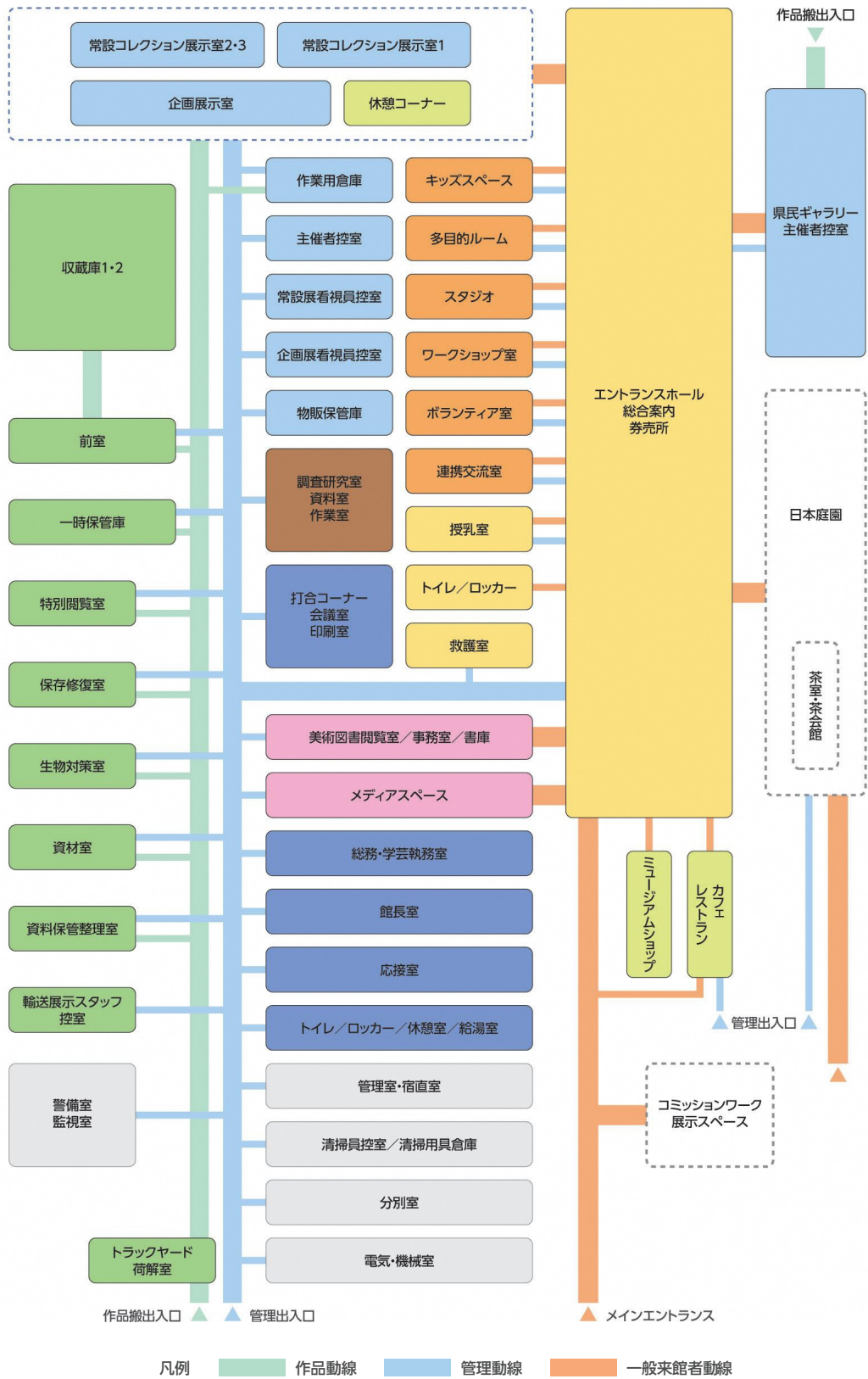
駐車場を含む床面積は 21,000㎡程度



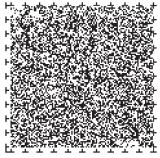
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(4) 諸室配置と動線計画

- 諸室の配置と動線計画の考え方を以下に整理する。
- 作品の搬出入動線と一般来館者動線が重ならない計画とする。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(5) 施設規模

施設整備方針、敷地利用計画及び施設計画をもとに、施設の面積、高さ、設計上の配慮事項を整理する。

ア 面積

1. 敷地面積

- 約20,400㎡

2. 床面積

- 新たに整備する美術館本体の床面積の合計は約14,000㎡とする。
- 駐車場その他付帯施設を含めた床面積の合計は21,000㎡程度とする。
- 建築基準法上の延床面積は基本・実施設計において確定するものとし、容積率は用途地域による制限（200%）の範囲内とする。

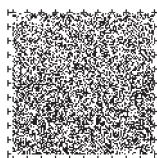
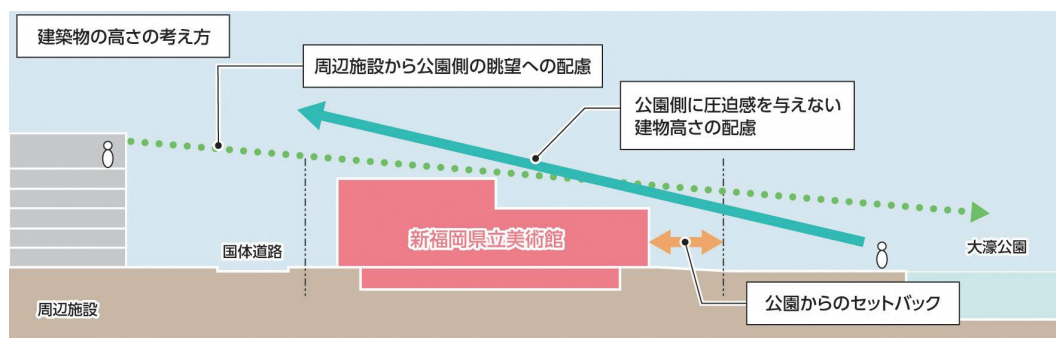
3. 建築面積

- 新たに整備する美術館本体と付帯施設、並びに日本庭園内施設の建築面積の合計は福岡市風致地区内建築等規制条例による建蔽率制限（40%）の範囲内とする。

イ 建築物の高さの考え方

都市の中の樹林地や水面などの自然的景観を維持し、人と自然の調和のとれた環境をつくるために定められた福岡市風致地区内建築等規制条例の趣旨を踏まえることを基本とする。

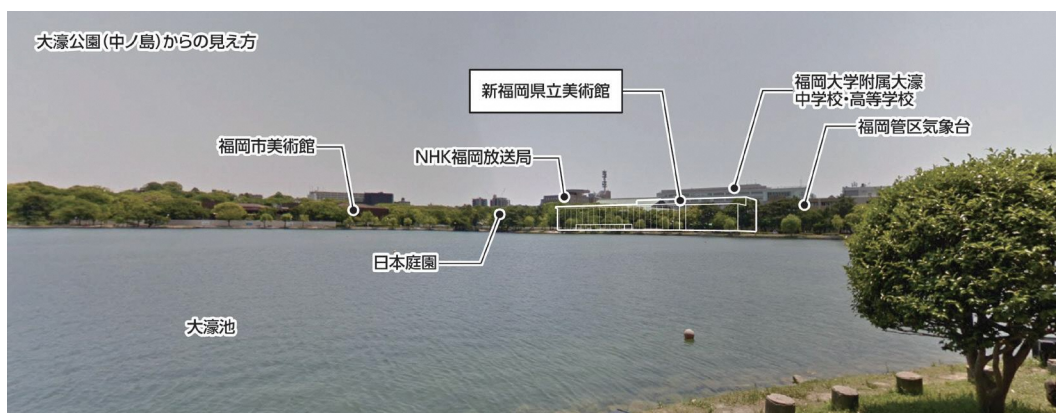
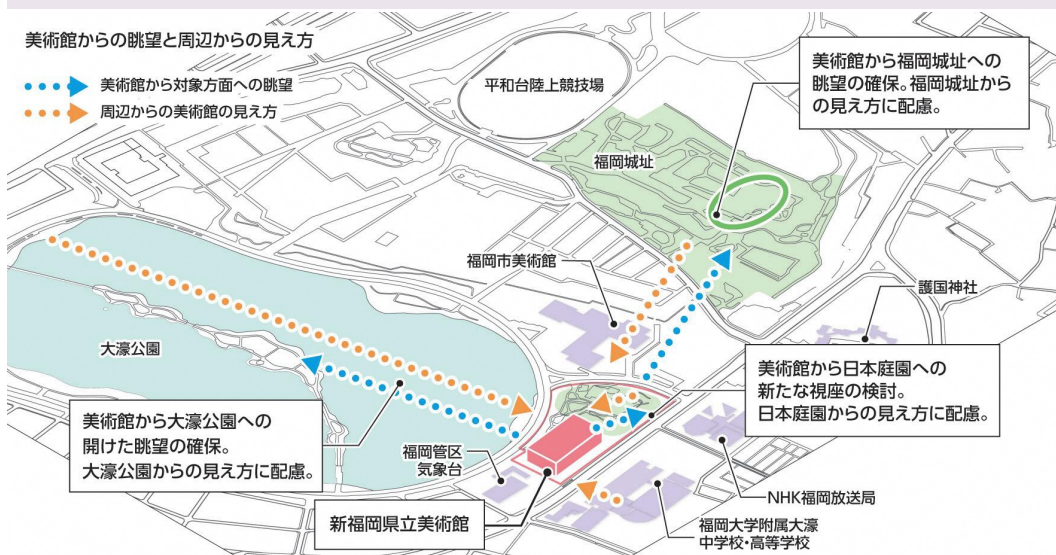
美術館の必要規模と大濠公園内からの一定の視認性（ランドマーク機能）を確保するにあたっては、できるだけ日本庭園の緑地を守りつつ、風致の維持に有効な措置を講じるとともに、周辺の風致景観と調和した一体的なデザインとなるよう配慮する。



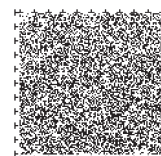
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

ウ 設計上の配慮事項（デザインコンセプト）

- a 公園と街をつなぐパブリックスペースにより、自然にアートに出会える親しみやすい美術館。
- b 公園や道路を行き交う人々に活動を発信できる美術館。
- c 公園北側から美術館への視認性の確保。
- d 公園や日本庭園への圧迫感を軽減するボリューム計画。
- e 公園や日本庭園を心地よく望める美術館。福岡城址への眺望にも配慮。
- f 周辺建物からの眺望に配慮。美術館自体も見られることを意識した屋上デザイン。
- g 芸術文化エリアの南玄関口にふさわしい沿道景観を先導する外観デザイン。
- h 建物と外部空間（日本庭園、大濠公園、国体道路）の間に豊かな中間領域を形成する空間構成。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

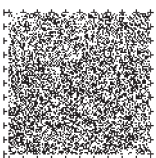


エ 全体コンセプト図



(6) 設計者の選定方法

- 新県立美術館の設計者選定にあたっては、次世代の美術館建設にふさわしいフレッシュで積極的な提案を広く求め、多くの提案の中から、本計画を最も具体的に表現し、実現しうる提案を行った設計者を選定する。
- 設計者には、人々を惹きつける質の高いデザイン力と創造性、技術力を備え、敷地の特性を十分理解し、創意工夫をもって課題解決にあたる力を期待する。
- 設計作業を進めるにあたり、県及び美術館と十分な意思疎通を図り、利用者や関係者の意見に柔軟に対応できる設計者を選定できる方法として、公募型技術提案方式(プロポーザル方式)を採用する。
- 選定にあたっては、審査過程における公正性、透明性、客観性の確保に十分留意する。

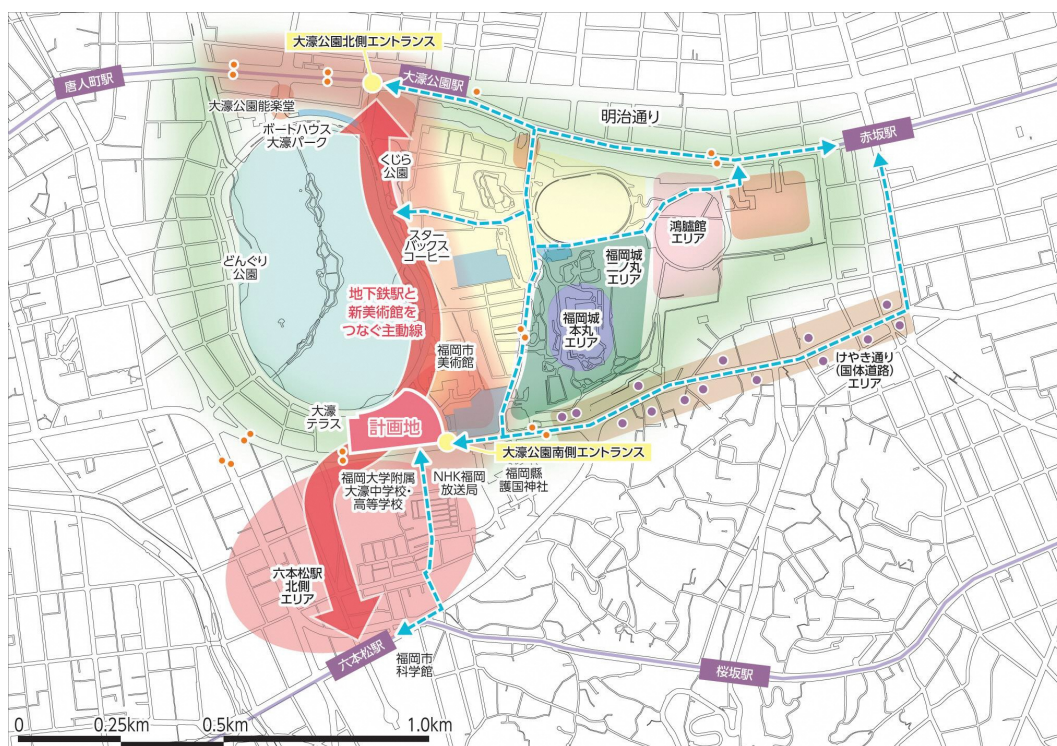


このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

5 周辺整備の考え方

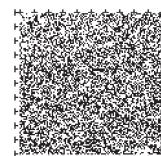
大濠公園と舞鶴公園では、両公園の特性を最大限に活かし、県民・市民、観光客の利活用を促進するセントラルパーク基本計画が策定されている。

新県立美術館の整備にあたっては、セントラルパーク基本計画に掲げる芸術文化エリアの新たな顔として、人々が集い、芸術文化を身近に感じられるような敷地まわりの整備を行うとともに、大濠公園内の美術館へのアプローチ空間や周辺市街地との連携によるビフォーミュージアム、アフターミュージアムの楽しみなど地域全体の活性化に寄与できる取組みを検討する。



- 凡例
- 地下鉄駅
 - バス停
 - 駐車場
 - ギャラリー・カフェ等
 - 地下鉄駅からの主な動線
 - その他の来館者動線

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(1) 美術館へのアプローチ

誰もが安心して来館することができ、新県立美術館の誘客にもつながるようなアプローチを検討する。

ア 大濠公園駅からのアプローチ

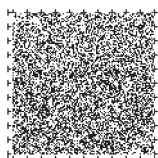
地下鉄大濠公園駅からは、主に公園北側の入口を通り、広大な大濠池に沿った園路を約1 km移動して新県立美術館に至る。清々しい水辺の風景を楽しめる一方、公園入口から敷地は遥か遠方に見える程度である。このため、大濠公園駅からの来館者を美術館へスムーズに誘導すると同時に、美術館への期待感や移動の楽しさを提供する方策を検討する。

- 楽しさと発見に満ちたアプローチ空間の展開
- 公園や福岡市美術館の利用者も気軽に立ち寄ることができる分かりやすく親しみやすい誘導案内
- 無理なく移動できる徒歩以外の移動手段



イ 六本松駅からのアプローチ

市営地下鉄七隈線の延伸により、広域から来館する人の主なアクセスルートとして地下鉄六本松駅の利用が予想される。来館者を安全に誘導するとともに、新県立美術館への誘客につながる方策について道路管理者等と協議の上検討する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

ウ 周辺バス停からのアプローチ

敷地周辺には、東側、西側、南側それぞれの徒歩圏内にバス停が点在している。路線バスで来館する人が最寄りであることを視認でき、新県立美術館へスムーズに導かれる方策について関係者等と協議し検討する。

エ 周辺駐車場からのアプローチ

敷地周辺には複数の駐車場があり、セントラルパーク基本計画では順次、駐車場整備が進められる予定となっている。こうした周辺駐車場を利用して来館する人のスムーズな誘導について関係者等と協議し検討する。

(2) セントラルパーク基本計画との連携

セントラルパーク基本計画にある「憩いと文化の交流ゾーン」の回遊性や利便性を向上することは新県立美術館への誘客にもなる。福岡城跡や鴻臚館跡がある舞鶴公園方面からも来館を促す方策を検討する。

●大濠公園南側エントランスの再整備

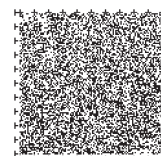
新県立美術館の開館に合わせ、国体道路に面する大濠公園入り口を「芸術文化エリア」の南玄関口にふさわしい空間として再整備することを検討する。



- 視認性が高く、芸術文化エリアの玄関口らしいサインや展覧会看板の設置
- 新県立美術館への入口らしいシンボリックな屋外美術作品や植栽アートの設置
- 歩きやすい歩行空間

などが考えられる。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



■方策の参考事例

- 来館を歓迎する植栽を設置している。
- 歩行者専用の小径に美術鑑賞への期待感を高めるような屋外作品を設置し、散策の楽しみを提供している。



練馬区立美術館と入口の植栽オブジェ
写真提供:練馬区立美術館



ヴァンジ彫刻庭園美術館(静岡県)
写真提供:ヴァンジ彫刻庭園美術館

- 公園入口にピクトグラムの案内板やデジタルサイネージを設置している。
- 美術館への誘導と展覧会の案内のためのフラッグを設置している。



東京都上野公園内展覧会共通看板



神奈川県立近代美術館 葉山のフラッグ写真
写真提供:神奈川県立近代美術館

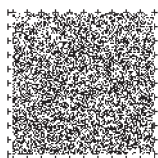
- 回遊性向上とアクセスの分散化を図っている
- 様々な移動手段を選択できる楽しみを提供し、環境にも配慮している。



超小型モビリティカーシェアリング
「チョイモビ ヨコハマ」(令和3年3月実証実験終了)
写真提供:日産自動車株式会社



レンタサイクルポート



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

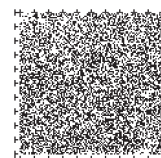
(3) 周辺市街地との連携の推進

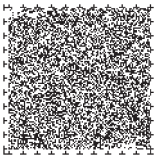
敷地周辺には、様々な文化施設や店舗が魅力的な事業を展開している。地下鉄駅、バス停、駐車場などを利用する来館者は、周辺で行われている活動やイベントを体験することで、新たな地域の魅力を発見できる。

来館者が周辺にも足を延ばすことによって、美術鑑賞にとどまらず、思いの楽しみを見つけ、豊かな時間を過ごせるような情報発信や、周辺の店舗・ギャラリー等との連携について検討する。

● 周辺の店舗やギャラリー等との連携の例

- 近隣店舗などにも気軽に立ち寄りたくなるようなマップの作成など地域の魅力を発見する取組みについて事業者等と連携して検討する。
- 周辺に点在するギャラリー等と連携し、周辺一帯を含めた文化芸術エリアの周遊についても検討する。





このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです
